



註
 寄
 政
 月
 令
 博
 物
 荃
 三
 秋
 部
 四





三秋之部目録

三秋の分ニ△印ありハ前より俳の季小用る物也

時令

此部ハ時侯小かりたること出せ
①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

△秋風 あきかぜ 秋 三	△秋霞 あきのあせ 秋 三	△秋虹 あきのにじ 秋 三	△袖のつる そでづる 秋 三	△つるけき つるけき 秋 三	△さきうのまがく さきうのまがく 秋 三	△川さうり かみさうり 秋 三	△秋日 あきのひ 秋 三	△さる月 さるつき 秋 三	△月の霜 つきのしも 秋 三	△月の氷 つきのこおり 秋 三	△不見月 ふせつき 秋 三	△三日月 みかづき 秋 三	△上弦 かみづき 秋 三	△不知夜月 しらずのよるつき 秋 三
△秋雨 あきのあめ 秋 三	△秋雲 あきのくも 秋 三	△露 つゆ 秋 三	△霧 きりり 秋 三	△霧の香 きりりのかほ 秋 三	△さきり下道 さきりげみち 秋 三	△さきり五人 さきりごにん 秋 三	△月 つき 秋 三	△月の桂 つきのけい 秋 三	△月の雪 つきのゆき 秋 三	△月の都 つきのみやこ 秋 三	△新月 あたらしくつき 秋 三	△望月 もちつき 秋 三	△望月 もちつき 秋 三	△待月 まちつき 秋 三
△秋 あき 三	△秋 あき 三	△秋 あき 三	△秋 あき 三	△秋 あき 三	△秋 あき 三	△秋 あき 三	△秋 あき 三	△秋 あき 三	△秋 あき 三	△秋 あき 三	△秋 あき 三	△秋 あき 三	△秋 あき 三	△秋 あき 三



△居待月 △十六夜月 秋 十丁
△伏待月 △寝待月 秋 十丁

△更待月 △九月月 秋 十丁
△廿三夜月 △全夜月 秋 十丁

△有明月 秋 十丁
△待月 秋 十丁

△残月 秋 十丁
△照月次 秋 十丁

△星月夜 秋 十丁
△身入 秋 十丁

△秋の聲 秋 十丁
△秋野 秋 十丁

△秋山 秋 十丁
△秋水 秋 十丁

△秋夕 秋 十丁
△秋夜 秋 十丁

混雜 此部より日令時令草木を
小わづらざる品と出す

△龍田姫 秋 十丁
△秋宮 秋 十丁

△律の調 秋 十丁
△千秋樂 秋 十丁

△鶉衣 秋 十丁
△田の庵 秋 十丁

△小田守 秋 十丁
△紫山子 秋 十丁
△添水 秋 十丁

△鳥籠 秋 十丁
△添水 秋 十丁
△鳴子 秋 十丁
△引板 秋 十丁
△有り 秋 十丁
△焼舟 秋 十丁

草木 此部より三秋ふくむる
草木をいふ

△柎 秋 十丁
△萩 秋 十丁

△薄 秋 十丁
△薄 秋 十丁

△糸薄 秋 十丁
△葛葉 秋 十丁

△忍草 秋 十丁
△蔦 秋 十丁

△芭蕉 秋 十丁
△景天草 秋 十丁

△草花 秋 十丁
△鶏頭花 秋 十丁

△雁来紅 秋 十丁
△白茅 秋 十丁

△萱刈 秋 十丁
△角觥草 秋 十丁

△大子草 秋 十丁
△萩殿 秋 十丁

△花壇 秋 十丁
△鬼灯 秋 十丁

△新番椒 秋 十丁
△若烟草 秋 十丁

△布瓜 秋 十丁
△薑 秋 十丁

△牛房引 秋 十丁
△芋 秋 十丁

△頭の芋

秋

△薯蕷

秋

△零餘子

秋

△耳諸

秋

△泉

秋

△柿

秋

△さつげ柿 △片もかき
△柿皮もくき

△梨子

秋

△本庄山梨

秋

△秋田

秋

△縮

秋

△落穂

秋

△稲丁

秋

△稲進

秋

△喬杆

秋

△稲扱

秋

△新米

秋

△綿取

秋

△挑吹

秋

秋生類

この部ハ三秋ふりて
ふ生るつゆ

△鹿

秋

△鹿

秋

△紅兼鳥

秋

△鳥

秋

△鷓鴣

秋

△鷓鴣

秋

△鷓鴣

秋

△欄田

秋

△鴨

秋

△鴨

秋

△鶉

秋

△鶉

秋

△鱸

秋

△鱸

秋

△江鱈

秋

△鱈

秋

△鱈

秋

△鱈

秋

△鱈

秋

△鱈

秋

三秋目録終

○五節句祝譯

一五節句として祝ふ事ハつゞき

陽月をいへばなりそは陽の生

成の道にして陰ハ肅殺の

謂たり陽の数ハ一三五七九

の奇数なり陰の数ハ二四六

八十の偶数なり故小陽と扶
 け陰と柳なる術小陽月陽日
 小食する物なる陽物を食し
 て陽と旺し陽を扶く先春
 餅草餅粽索餅栗等の物
 と供御ふ献るこれなり故小
 節供くは江家次第小委く
 見えたり正月の七日とりのて
 節供の初老と守清少納言
 の枕草子にも粥の節供黍
 などいへるも此事ありとせ
 ず正五九月と三長月や
 定らざるは仁明帝の御宇
 承和三年の詔とくや

秋之部

三秋のちとる阿らるもの
 秋のふ候のき用ゆるなり

時令

此部は秋の候なり
 七月又八月は秋の初なり

秋風

秋の風はむげしくつらき
 のちり又涼しきとてあま

後拾遺

後定

秋の風はむげしくつらき
 のちり又涼しきとてあま

拾遺愚

秋風満野 海家
 ありて落もさうらぎの或新秋

秋の風はむげしくつらき
 のちり又涼しきとてあま

秋の風はむげしくつらき
 のちり又涼しきとてあま

秋の風はむげしくつらき
 のちり又涼しきとてあま

秋の風はむげしくつらき
 のちり又涼しきとてあま

秋の風はむげしくつらき
 のちり又涼しきとてあま

秋の風はむげしくつらき
 のちり又涼しきとてあま

① 秋風のきりぎりすも何れ後うま 紀巴
② 独風や雀の竹の葉にやれ 関女
③ 狂々ざれし門のやまをくつて
④ 何れもふらふら秋風ぞひく自由

詩 秋風五字對句

山樹含斜日 晚風連殺氣
ヤニノジユモクニ ヌラカセガフケハモノ
ニフヒノカダヲモモ スゴヒケレキニナリ
池風澄早涼 新月照邊秋
イケノカセガハヤウ ミカツキガヘンドロ
スゴヒケレキヲモスル アキゲレキヲミセル

詩 秋風七字對句

秋風江上濤無際 白雲飛
シラクモガ ハクワントダ
アキカセガ江ノウヘニフケル シラクモガ
ナニガハテレナフタツ ハヤウユカ

暮雨舟中酒一樽 風滿樓

ボウ レウチウサケイツン カゼミツロクニ
クレカタンアメガモフサビレイユヘ カセガニカヒ
フチノ中デサケナリトモニミナラズ ヲフキヌク

詩 秋風詞

琪樹西風 枕簟秋 楚雲湘水懷同遊
キジュセイフウ タンアキ ウキレイユモ
ソウウンシヤクスイ ヲモロドウ ヌラカ
思ハバ子サメソ ヲウ
心ガ秋イテキタ

ソレニツケテモ雲夢沈ヤ湘水ト云取テカウカイソ
アソシタカレフツタ人ノコトヲ思ヒトダス 高歌一

曲掩明鏡

キハラシニ歌フアテテキノス
オトヲ調テ鏡ニタテモ 昨日

少年今白頭

キノフソカイトキカツイケラ
ノレカガ首トナツタトオモフ

秋雨

あまのこ 何れをちりりもひもれと
まらぬ 雲雨さとしれあまのこ
日をもく 晴中しぬ心りまほし
雨スハ夜の明中しぬ心りまほし

秋 夫木

秋風乃をそひて 何れも村を
あまのこまきりて月うらうらそ
千首 秋雨打窓 師兼

秋 夫木

秋風乃をそひて 何れも村を
あまのこまきりて月うらうらそ
千首 秋雨打窓 師兼

秋 夫木

秋風乃をそひて 何れも村を
あまのこまきりて月うらうらそ
千首 秋雨打窓 師兼

狂^{あはれ}あ^らぬ^まど^ろと^ろや^とぞ^ろの^村雨^の
さ^がも^絶回^もい^そけ^しく^らる^常景^巻

詩 五字對句

同上

晴山疎雨後

白雲當嶺雨

秋樹斷雲中

黃葉遠階風

詩 七字對句

詩

九曲暮雲連雁宕

秋風飛

片帆秋雨落錢塘

帶雨秋

秋霞

朝魚又東のう^らぬ^くと

朝天子雲のやける紙船やけと

朝天子雲のうらら^らぬ^らる^らる^らる^ら

夕^ゆふ^ふの^うら^らぬ^らる^らる^らる^ら

やけ^やけ^あら^うく^て也^まり^れば^つぎ^て

秋霞

朝魚又東のう^らぬ^くと

朝天子雲のやける紙船やけと

朝天子雲のうらら^らぬ^らる^らる^らる^ら

夕^ゆふ^ふの^うら^らぬ^らる^らる^らる^ら

やけ^やけ^あら^うく^て也^まり^れば^つぎ^て

秋霞

朝魚又東のう^らぬ^くと

朝天子雲のやける紙船やけと

朝天子雲のうらら^らぬ^らる^らる^らる^ら

夕^ゆふ^ふの^うら^らぬ^らる^らる^らる^ら

やけ^やけ^あら^うく^て也^まり^れば^つぎ^て

日^ひ初^はり^霞の^夕春

秋^あ虫^む朝^あの^朝の

の十六丁^よめ^よ妻^い

秋^あ虫^む朝^あの^朝の

西^し又^ま日^ひ也^も三^み日^にの^内雨^ある^る

書^しの

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

朝^あの^朝の^朝の

露の玉は玉の足とふさるるを
露の玉は玉の足とふさるるを
露の玉は玉の足とふさるるを
露の玉は玉の足とふさるるを
露の玉は玉の足とふさるるを
露の玉は玉の足とふさるるを
露の玉は玉の足とふさるるを
露の玉は玉の足とふさるるを
露の玉は玉の足とふさるるを
露の玉は玉の足とふさるるを

秋 建仁教令

寂蓮

晴雨つらゆ人のつらう神さえて

ら風さむきあくのむく露

千五百番秋令 通具

志ぬれはつけきれ村雲やもも

入日うまぐくられそらほ

貞應百首 淡茅露 為家

おけはかやとれそらほ人の

まど志につくほ色のまも玉

夫木 名不露 僧正初志

露の玉は玉の足とふさるるを

そのほる露うやと秋月うま

後拾遺 朝露 範永

こしはまつるお秋の露と秋の

露うやとぬるまも秋のまも玉

千首 荻露 為尹

秋のまも玉の足とふさるるを

一月くまぐる秋のまも玉

家集 露秋秋玉 信輔

秋のまも玉の足とふさるるを

あくられはまきゆのまも玉

月年らるるる。秋のまも玉の

秋のまも玉の足とふさるるを

の下の露。菊の下の露。さるる

ゆれまも玉。秋の下の露。さるる

のまも玉。小豆の露。さるる

茶花 秋のまも玉の足とふさるるを

くまも玉の足とふさるるを

秋のまも玉の足とふさるるを

秋のまも玉の足とふさるるを

秋のまも玉の足とふさるるを

白露 ころもきり せせりこ 露のや

萩をたのまふ 月よもぎ のしゆ

あふ草 女即死 女のいの

たより 浅茅 洗ゆをゆわく

右郷 きのつゆもまらば 尾花

つるふらき 尾花 尾花の

よけをぶら 尾花 尾花の

たて 急 外 急 急 急

そこののま 急 急 急 急

らぬあひを 急 急 急 急

とく 急 急 急 急

どろき草の 急 急 急 急

あき人の 急 急 急 急

狂 誰 狂 狂

知り 狂 狂 狂 狂

連 露 狂 狂

詩 露七字對句

詩 礎

直望明河臨象闕 露未乾

誰沾零露捧金盤 雨露清

光泛月華明徹曙 玉露秋

氣晴天宇暗生寒 白露偏

桂香多露裏 夕陽飄白露

石響細泉廻 樹影拂青苔

露故事 陰陽氣勝

露故事 陽氣勝

露故事 陽氣勝

露故事 陽氣勝

露故事 陽氣勝

露故事 陽氣勝

露故事 陽氣勝

露故事 陽氣勝

露故事 陽氣勝

露故事 陽氣勝

金莖

漢武帝承露盤トテ器ヲ銅ニテ高サ二十丈ニ作り建

章宮ニテ一夜天ノ甘露ヲ兼テ玉屑ニ和シテ飲タリトアリ

霧

△きりの海△きりの香△霧のまがき△きりれまづく

△きりの下名△川きり△きり雨

△きり三人。まの霧之階ハ雲也

天乳りり地蒸せさる霧才と云

發して無せざるを霧といハ皆

霧の雲どりのあり秋にこそ

霧へんうして船々あり其まのき

湖ハまもみ枯れ△きりの色ハ

物を名ぞとあつを△霧の海

瀬く△霧の海のごくなる△霧

の霧ハ霧又霧あり△きりまの

るぞとさる人を△霧の雲も

きりれまざる後に物のぬるるぞ

△霧の霧もなるきりのまざる

△霧の霧をゆる△川きりの

川はまざる霧なり△きり雨ハ
小雨乃そそる霧をいへり

み只百番秋合 後改

磯をいへまのそやまれ文どは

霧のまがきをあらはるる

建長百首 光俊

朝日さけ方のゆる霧をいへり

とほくくよも霧の秋之那

まよ霧中を霧 西外

錦らる杖の本どえとせぬ哉

るどりのきりれ風をはりて

建保百首 家隆

浪のうらけ杖の中まの物境の

なかりてきりのまもみ霧の

詞をどろたつこもる霧を

ハ霧をまらるる霧の霧を

まよ霧の霧の霧の霧の霧の

まよ霧の霧の霧の霧の霧の

まよ霧の霧の霧の霧の霧の

まよ霧の霧の霧の霧の霧の

まよ霧の霧の霧の霧の霧の

の浦 朝日山。入相のうき雲をまろ。
 きりさめ。秋の旅人。日朝日朝日
 りの。日朝日。うき雲のそめ日朝日
 まるむ。月。日。風。まをれ。夕。風。
 うき雲。まをれ。夕。風。まをれ。夕。風。
 うき雲。まをれ。夕。風。まをれ。夕。風。
 うき雲。まをれ。夕。風。まをれ。夕。風。
 うき雲。まをれ。夕。風。まをれ。夕。風。
 うき雲。まをれ。夕。風。まをれ。夕。風。
 うき雲。まをれ。夕。風。まをれ。夕。風。
 うき雲。まをれ。夕。風。まをれ。夕。風。
 うき雲。まをれ。夕。風。まをれ。夕。風。

詩霧詞

伏越

水霧 雑山 烟
 冥々 不見 天
 聽猿 方村 岫
 水 上ノキリガ山カラ立
 冥々 不見 天
 聽猿 方村 岫

開瀬 始知川
 瀬ノ水ヲトキキイテ公
 開瀬 始知川

漢人 惑澳浦
 リヤウヒオキ庄ウラ庄
 漢人 惑澳浦

行舟 迷沂沿
 セニドウハフ子ノボリ
 行舟 迷沂沿

日中 氛霽盡
 ヒルゴロニカノキリガ
 日中 氛霽盡

空水 共澄鮮
 ソラモミツモイツシヨミ
 空水 共澄鮮

秋月
 夕。風。まをれ。夕。風。
 秋月

秋の 日乃 ちとむの せと おおひ
 秋の 日乃 ちとむの せと おおひ

秋の 日や 委りれ せぬ 長橋 雪光
 秋の 日や 委りれ せぬ 長橋 雪光

今 入り 初 なる 漁土 の んぞ
 今 入り 初 なる 漁土 の んぞ

月
 月 大 陰 の 移 之 と 唯 南 子
 月 大 陰 の 移 之 と 唯 南 子

三月 月 夕 月
 三月 月 夕 月

男
 男

かゝる玉。はき人おこし。出さるる

ら男。葉をうつりの花に林をまよ

異名 婦城 張衡靈臺 丹桂 石平河見

素娥。玉兔 因樹屋法 王金心 西陽雜俎

蟾蜍 王德通義 金波 孟漢書 五九 秦詩

金桂 河圖考覽 金環 自公六集 銀盤

屢詩。水鏡 謝莊月賦。水輪 東坡詩集

水氣 淮南子。望舒 淮南子。夜元 天問謠

月をみるるの月分漸く。秋も春の

賜よ。いと哀の葉を風雲月を蔽せて

霜人を後して。後を月と。秋の空を

秋と雲のねく。とやん先とら其附の

夏を秋の金丸をたて月いよく

明らけしよ。く月とのてい。詩秋

運懶。もも三秋を後る。後る八月を

七月の後る月乃。系又十五。月一の

中。方より。暑地。くく月家。後日

夏文。秋風の十一。ふんそ。つり。月

八月の部。くく。くく。後る月を

なと。詩秋。連。滅。其。不。く。く。出。と

○上弦下弦 月の最月の盛虚名の

まけの糸。如く。博物志。冬。雪。嵐。待。地。等

○本朝。七月の月。の。林。と。月。讀。る

る。中。も。く。之。邪。代。卷。り。丸。く。く。り

全盛のうげ。全盛の光と。ふい。さ。く。く。と

く。河の。色。の。月。の。字。の。こ。れ。る。は。り

て。秋。意。を。く。く。け。け。り。の。て。月。意。の

月の。後。の。付。よ。定。ま。深。見。の。月。の。か

を。と。き。故 酉陽雜俎二曰

月桂 月ノ中ニ桂ノ

樹アリ高サ五百丈其木ヲ斧テ

以テ伐入アリツノ名ヲ呉剛ト

云フ常ニ伐ルニ斧ノアト伐ルニ

隨ツテイエテツイニ伐リツクス

コトヲエズト云ヘリ依テ。カッ

ラ男。カッラノ花。タハ。カッラ

ノ。モミギ。又ハ。カッラノカゲナド、

イエルヨナリ

◎久く。これ月の。く。く。も。秋。来。ル。が

る。く。く。と。ん。が。や。て。う。落。く。く。え。恋。岑

露やや月の桂の花やちる 昌叱
露や月の桂の花やちる 昌叱
群ト云フ人不老不死ノク
スリヲ西王母ニ請ヒ得タ

二拜カ妻ノ嫦娥又ス三服シテ
月ノ下ニ奔リノホリタリト云フ
故事ナリ 事文類聚ニ出ヨツ
テ月ノ異名ヲ嫦娥ト云ヘリ

月都 死世經云日月天の宮殿
横心云云

由旬あり此面乃垣牆ハ七重トシテ
是よりと云云此月のもとの
故列乃玉不かり

秋 夫本 為家

月鼠 譬喻經ニ日虎ニ逐レタル
人野中ノ井戸ニ落入ニト

レテ草ニトリツキタルニ黒キ鼠ト白
キ鼠ト有テカノ草ノ根ヲ齧カノ黒
キ鼠ハ月之白キ鼠ハ日之コレ月日ノ
早クタツタトヘテリ月ノ鼠ト云事
此經説ヨリ起レリ

秋 我乃のひまけ根と心鼠ぞと
そんハ月乃のうらやきと 後成

月鼠 月乃の地又照ガキ
月乃のひまけ根と心鼠ぞと

秋 我乃のひまけ根と心鼠ぞと
そんハ月乃のうらやきと 後成

月鼠 月乃の地又照ガキ
月乃のひまけ根と心鼠ぞと

秋 我乃のひまけ根と心鼠ぞと
そんハ月乃のうらやきと 後成

月鼠 月乃の地又照ガキ
月乃のひまけ根と心鼠ぞと

秋 我乃のひまけ根と心鼠ぞと
そんハ月乃のうらやきと 後成

月鼠 月乃の地又照ガキ
月乃のひまけ根と心鼠ぞと

秋 我乃のひまけ根と心鼠ぞと
そんハ月乃のうらやきと 後成

月鼠 月乃の地又照ガキ
月乃のひまけ根と心鼠ぞと

秋 我乃のひまけ根と心鼠ぞと
そんハ月乃のうらやきと 後成

月鼠 月乃の地又照ガキ
月乃のひまけ根と心鼠ぞと

月の雪 月の光ゆるゆる
雪はゆるゆると
月乃霜と日しづかたり

雪をふかばりし物と丸重う
秋も日しづかたり月乃霜 三玉

如泉
如月雲抄やなして
真海

月此氷 月乃ひうり氷
如月雲抄やなして

日きよと都の秋を見まかせば
おどろくまげる氷なりたり 後成

真如月 如月雲抄やなして
如月雲抄やなして

一切の妄想う 湧きぬとま如
の月とひんかり

夫本 如月雲抄やなして
如月雲抄やなして

心月 如月雲抄やなして
如月雲抄やなして

胸月 如月雲抄やなして
如月雲抄やなして

不見月 如月雲抄やなして
如月雲抄やなして

狂 如月雲抄やなして
如月雲抄やなして

詩 七字對句 詩礎
如月雲抄やなして
如月雲抄やなして

四野霧凝空寂寞 空對酒
如月雲抄やなして
如月雲抄やなして

月乃詩歌連俤 如月雲抄やなして
如月雲抄やなして

秋金系 皇后宮肥後
月を思ふかりとておれまはるるが
ゆゑも去らばあかきとてゆゑ
千載 実家

秋乃秋のこゆとほくはらふこそ
かのうらぐちのちの月ようふ
續後撰 知家

うぐひしのこよの秋もまじ
月うしじのわけやまらふ
續古今 実家

足取まふ秋風さし 天の系
中つた月夜の夜ぞあけふあ
續拾遺 衣笠

かきぎのこまの樹も白き
ころ霜いそぐ秋の月うら
玉系 西行

人も月ぬうらたれられとまき
とむらん月のうげとこそ
續千載 俊成

ふづのてもまきぬ月の秋ぞ
よりのたかあは乃露のふたを

新古 回家見月 弟工はる

月つたふ山回の房のあけ月や
かろこまむと水をぬらん

月清 池上見月 後東梅

池上と心光るをよとすむ
本此下々きまは乃月うら

詞 月つた月つた月つた月つた

月つた月つた月つた月つた

月つた月つた月つた月つた

月つた月つた月つた月つた

月つた月つた月つた月つた

月つた月つた月つた月つた

月つた月つた月つた月つた

月つた月つた月つた月つた

運 宿まくせむがれゆるそつ月 名碩
 ぶつさく月見世の彩のさき 未碩
 月やふき草さうく江の秋の水 泉祇
 窓ふんく月のうちなる理ふま 咲盛
 櫛 三つがひよんてきた物よ水月 さま
 撥つらももろびやうり草乃月 芭蕉
 月の影をいせり移さるる月 素堂
 明くともと 龍出まあふ月夜ふ 危言
 月夜くは云家の姿を月夜ふ 舟考
 狂 月つじしを月つじしは ぼつし
 月つじしを月つじしは 眞本
 月つじしを月つじしは 眞本
 何んト入るる月乃夜なる信海

詩月詞

東坡

一更山吐月 月が出ル
イッカクヤマハキツキラニヨヤジブンニシカカラ

玉鏡卧微瀾 玉ノカミニガサツナニ
ゴヨクキヤウフスビラニ ヲノカミニガサツナニ

正似西湖上湧金門外看
テウド西湖ノ上ノユキンモニトコロノ

阿タリテ見タヤウナケンキジヤ
アタリテ見タヤウナケンキジヤ

詞月詞

李白

小時不識月 月ヲ白タニノク
コトシニシラツキラ ナイサイトキ月ト

呼為白王盤 月ヲ白タニノク
イハレタマヒトイフタ

又疑瑤臺鏡飛上青雲端
マタタニノウテナノカミニガサツナニ

又疑瑤臺鏡飛上青雲端
マタタニノウテナノカミニガサツナニ

待月五字對句 同上

玉軫鳴風久 自是登樓早
タニノコトヲカタエズ 今カラ八月ヲミヤウトテ

金輪出霧暉 非于出海邊
キリリンニワカ霧ヲモ 月ノ海カラ出ヤウ

新月 娥眉 破環 抱朴子
ニハルニガランイ カヲイユニテハナク

新月 盧全詩集 古詩
ニハルニガランイ

新月 西月 三月
ニハルニガランイ

新月 三月 三月
ニハルニガランイ

新月 三月 三月
ニハルニガランイ

新月 三月 三月
ニハルニガランイ

新月 三月 三月
ニハルニガランイ

新月 三月 三月
ニハルニガランイ

新月 三月 三月
ニハルニガランイ

と他は三ふ疾まで各月のみ
勿論之より新月の満月とも又

朧とも風月ともて有於たる
詩 新月織々抹黛眉此は三月月

三月月 朧文選 異名 裁星
和名 若月若月

〇月三月よりて總とるはとらり
〇その月大なるは二月二月明らう

みあるその月小なるは三月三月明らう
なる哉とは姑と云ふも三月三月出

秋 本の所り根根さうき三月月の
うげらうらうはかみの死 夫家

夫本 あらうり人のき色極はよき今も
まろくぞをき三月月のうげ 知家

俳 何となくは誰か捨てて三月月交考
及家のきやわとや三月の月を圃

三月月や月さきみ林水の月 苗菟
きのをあたるともは付たり三月の月蓮二

狂 物道の奇虎はくくくく行きや
眉さびくく三月の月うけ 貞佐

弦月 〇のわり月〇くくり月
〇弦月〇二弦〇下弦

異名 依鏡 古泉有 輪貝 杜詩 暈缺
淮南子 如朝文選 恒月 詩經 圓缺

〇此月。上弦とつひ毎月七八日と
なり下弦とつひ廿三日也 表名

強くは月の形すの夜は弦月の形
引と張さうては左より弦月と号

弦月を待ち張るとつひはひの跡
さうく入るとあり有於 順

狂 夜とあそびかまはれ月のみくくハ
竹の如くく人よこそあれ 未

弓月 詩歌には弓月に弓をたまた
季八月 十八日のまよふ月也連御

〇八月十五日の夜委一き次と
八月十五日の夜に記也

不知疾月 既早。裁早。二
八秋。輪減。光虧。

秋 缺。十六夜月色をに委是又十
六日の月を介 歌は杖の十六日と記

若葉の嫁白うれば月けのつらと
竹を依の勢至がさるゝついで拜
むきり正又九月三ヶ月の月け
とついで秋の月と拜せり

有明月

十月秋以後の月之月
あつてとむりうらたのなつて

秋の月のつとをくもる割と
あつてとむりうらたのなつて

心の路と新れことえよ信として
窓より出のありけの月 寂蓮

連の明の月ふはあつてふり
秋の月やちの月まのま 正秀

狂の世はひまの影とついで
ゆきひ月けもありけの影 信海

待月

詩奇くもよにまよふ
秋の月と秋の月と

少及俳の三秋かり
秋の月や移りてはなれぬは後葉を考

秋の山と秋の山とさるゝ
つれなく見えて月をまよふ 仙洞

残月

月のまはく秋又明の月
をさるゝ十七八秋の残り

秋のまはくつゆの月をまよふ
松のやなるこの秋の月 西竹

のころ秋もわらわの月うけ
こそまはれぬとついで 政有

俳の秋のまはくつゆの月
残月や移りてはなれぬは後葉を考

狂の月やちの月まのま
かつての月とついで 貞徳

照月次

三月月の明より十月以後の
明月の影と秋の月をさるゝ

秋のあはれつゆの月をまよふ
こそしを秋のまはくつゆの月

秋をばとついでついで水の西
ついでついでついで

星月夜

星の光りけついで
月夜のやうに西を

星月夜とついでついで
をさるゝ合はれついで

の年より入身戸の何るあともいふ
るの秋篇藤原公家より

秋 塩川百首 常陸
我ひとりかまらうらなをえゆけが
や一月秋こそうましくかりけれ

身入 秋風人の清うらなを
こひせしと樂あはるりのん

秋 田のやうらなもまらぬまらぬ風の
あふまむかたれ秋の来ふなり

連 乃まむやうらな秋の風 紀伊
非 乃いむやうらな秋の鳥鳴水

秋の聲 せんもたつ物ふれて
さしづきささるる

鄒 郭云此幽其そん秋の声 梅水
引くても何中うらな秋の夢 湖雪

詩 古文秋聲賦 歐陽永叔

方夜讀書聞有聲自西南來

者 永叔が夜書ラヨシテ井タレトコトモナレニ
コエカアリテ西南ヨリ來ル

悚然而聽之曰 テ云フコトニハ

異哉初浙瀝以蕭颯コトトヤ

ハジメハサラクトシテ
モノサビレク

忽奔騰而淫泝 水ノナガルヲトカスル

如波濤夜驚風雨驟至 下略

ナミカ夜中ニタツテルヤタモアリ雨風ガ
ニハカニラツテタルヤウニモキコエル

秋 秋の夜のけしきと
も委く九月の月の光

秋 秋の野に咲く花と
もさかぞへはせくそのつら

秋 秋の夜に人の中り
もあはれと人の中り

秋 秋の夜に花の
もあはれと花の

秋 秋の夜に松の
もあはれと松の

秋 秋の夜に麻の
もあはれと麻の

秋 秋の夜に尾の
もあはれと尾の

秋 秋の夜に...

秋 秋の夜に...

秋 秋の夜に...

秋 秋の夜に...

秋 秋の夜に...

秋 秋の夜に...

下りて。晴るく。秋ふり人。古柳
秋霧。藤のむらび。白萩。露
らつ。か門らるりさぢ

① 狂う。道女の中。しらね。秋のせうれや
まけ花こそ多く。つらけれ。本才

秋山 秋のふり。これ。画が。て。く。明らう
こころ。い。く。何。も。く。さ。び。い。

② 秋ふり。り。ち。の。ま。び。と。ま。さ。ひ。ぬ。る
姓。瓜。も。く。ら。ん。や。ま。み。ゆ。る。く。け。も

詞 雲ゆる。月。は。の。ほ。る。指。さ。び。き
。藤。さ。く。入。や。と。れ。ま。の。夕。日。紅。糸

③ 在外。秋。の。せ。う。と。る。抵。押。ま。し
備 修。珍。者。の。紙。帳。と。り。や。秋。の。山。如。東

詩 秋山五字對句

望中疑在野 山形圍澤國
山ノスカタガ水ニ。多。ラ

幽處欲生雲 秋色露人家
秋ヶ。キ。キ。中。ニ。人。カ。住。テ
居ル家モ。三。五。元

雲ガ立テ出ソウチ

秋水 清く湛湛。く。そ。と。ど。良し
く。冷。ま。い。ろ。み。ぎ。う。ち。り

④ 秋。く。風。し。る。り。水。も。清。く。ま。い
山川より。や。秋。り。ら。ん。時。房

⑤ 秋。夜。と。い。ま。き。ら。う。秋。水。茶。白

詩 滕王閣記

落霞與孤鶩齊飛 秋水共長天
ユラギリトヒ ヌトリトガ

一色 秋。水。共。長。天
ソラトヒトツノイロニ。ニ。エ。ワ。タ。ル

秋水 秋水時至 秋水時ニ至
リ百川河ノ

故事 莊子秋水編 秋水時ニ至
リ百川河ノ

西侯ノ渚。雁ノ間。ニ。ソ。ギ。牛。馬。弁
世。不。河。伯。倏。然。ト。レ。テ。ヨ。ロ。コ。ビ。流

二腹フテ行ク云

秋夕 秋の日は。暮。乃。以。を。ま
秋の夜。は。ま。ま。大。く。長。き。う

⑥ 秋。の。う。ら。風。萩。の。ま。く。つ。由 義。菴

見ゆれば花ももろもろなりやう
うらた露家の秋のさぐれ 定家

新古今
さぐれさぐれつらとしまつら
まきま山の秋のゆへに 寂蓮

新古今
さぐれさぐれつらとしまつら
さぐれさぐれつらとしまつら

詞
ゆへに花ももろもろなりやう
うらた露家の秋のさぐれ 定家

さぐれさぐれつらとしまつら
まきま山の秋のゆへに 寂蓮

さぐれさぐれつらとしまつら
さぐれさぐれつらとしまつら

詞
ゆへに花ももろもろなりやう
うらた露家の秋のさぐれ 定家

さぐれさぐれつらとしまつら
まきま山の秋のゆへに 寂蓮

さぐれさぐれつらとしまつら
さぐれさぐれつらとしまつら

詞
ゆへに花ももろもろなりやう
うらた露家の秋のさぐれ 定家

さぐれさぐれつらとしまつら
まきま山の秋のゆへに 寂蓮

さぐれさぐれつらとしまつら
さぐれさぐれつらとしまつら

詞
ゆへに花ももろもろなりやう
うらた露家の秋のさぐれ 定家

さぐれさぐれつらとしまつら
まきま山の秋のゆへに 寂蓮

さぐれさぐれつらとしまつら
さぐれさぐれつらとしまつら

詞
ゆへに花ももろもろなりやう
うらた露家の秋のさぐれ 定家

さぐれさぐれつらとしまつら
まきま山の秋のゆへに 寂蓮

さぐれさぐれつらとしまつら
さぐれさぐれつらとしまつら

詞
ゆへに花ももろもろなりやう
うらた露家の秋のさぐれ 定家

さぐれさぐれつらとしまつら
まきま山の秋のゆへに 寂蓮

さぐれさぐれつらとしまつら
さぐれさぐれつらとしまつら

詞
ゆへに花ももろもろなりやう
うらた露家の秋のさぐれ 定家

さぐれさぐれつらとしまつら
まきま山の秋のゆへに 寂蓮

峯看不盡 江ノアチラノカスノ
レドモツキヌヤウナニ

晚鐘残雨入蘆花 入相ノカ子ノコ
一ツニ成テ其ノホノニシテモハ日ガクニカ

秋夜 秋の夕日暮のゆへに
候ハ一候ハあいにいふ

秋夜 秋の夕日暮のゆへに
候ハ一候ハあいにいふ

秋夜 秋の夕日暮のゆへに
候ハ一候ハあいにいふ

秋夜 秋の夕日暮のゆへに
候ハ一候ハあいにいふ

秋夜 秋の夕日暮のゆへに
候ハ一候ハあいにいふ

秋夜 秋の夕日暮のゆへに
候ハ一候ハあいにいふ

秋夜 秋の夕日暮のゆへに
候ハ一候ハあいにいふ

秋夜 秋の夕日暮のゆへに
候ハ一候ハあいにいふ

秋夜 秋の夕日暮のゆへに
候ハ一候ハあいにいふ

混雑

け邪は日令耐令本
なびらうまふる雨と出

龍田姫

四都の西より龍
田に移座せり電

回差ともいふ秋のまはるる出
造化の糸を名はけくつり

秋

我ゆへ十月のそら龍田
ゆめけらるるを風しらす

狂

あふけつふふらり美赤い
とくと龍田のひびきのみ

秋宮

宮庭宮の所り
宮庭宮の宮いふあり

中宮

中宮とも秋宮たや
中宮とも秋宮たや

律の調

二月のつ時
物と律名の調

子秋樂

これ盤渉調の曲
子秋樂の曲

歌

秋のたのたの
秋のたのたの

俳

子秋樂仲人の
子秋樂仲人の

狂

賀志の子秋らく
賀志の子秋らく

鶴夜

貞徳の白まび
貞徳の白まび

俳

衣をまきく
衣をまきく

俳

衣をまきく
衣をまきく

俳

衣をまきく
衣をまきく

俳

衣をまきく
衣をまきく

俳

衣をまきく
衣をまきく

俳

衣をまきく
衣をまきく

俳

衣をまきく
衣をまきく

俳

衣をまきく
衣をまきく

俳

衣をまきく
衣をまきく

俳

衣をまきく
衣をまきく

俳

衣をまきく
衣をまきく

確 檜の皮を剥ぎてその皮を
あつた板のようにならして
けたる物と云ふ

鳴子 繩を絞つて鳴子と付けて
多量の響く風を自鳴
の如く

引板 板を人等にて繩で引
かき中へまきける物
これに麻をひく

引板 板を人等にて繩で引
かき中へまきける物
これに麻をひく

鳴竿 竹を繩とまきくさる付
て引るらしむる物なり
風も鳴るなり

鳴竿 竹を繩とまきくさる付
て引るらしむる物なり
風も鳴るなり

鳴竿 竹を繩とまきくさる付
て引るらしむる物なり
風も鳴るなり

鳴竿 竹を繩とまきくさる付
て引るらしむる物なり
風も鳴るなり

鳴竿 竹を繩とまきくさる付
て引るらしむる物なり
風も鳴るなり

鳴竿 竹を繩とまきくさる付
て引るらしむる物なり
風も鳴るなり

鳴竿 竹を繩とまきくさる付
て引るらしむる物なり
風も鳴るなり

鳴竿 竹を繩とまきくさる付
て引るらしむる物なり
風も鳴るなり

鳴竿 竹を繩とまきくさる付
て引るらしむる物なり
風も鳴るなり

鳴竿 竹を繩とまきくさる付
て引るらしむる物なり
風も鳴るなり

鳴竿 竹を繩とまきくさる付
て引るらしむる物なり
風も鳴るなり

鳴竿 竹を繩とまきくさる付
て引るらしむる物なり
風も鳴るなり

鳴竿 竹を繩とまきくさる付
て引るらしむる物なり
風も鳴るなり

鳴竿 竹を繩とまきくさる付
て引るらしむる物なり
風も鳴るなり

鳴竿 竹を繩とまきくさる付
て引るらしむる物なり
風も鳴るなり

鳴竿 竹を繩とまきくさる付
て引るらしむる物なり
風も鳴るなり

鳴竿 竹を繩とまきくさる付
て引るらしむる物なり
風も鳴るなり

秋 海のりいあき 漸に外山より
まきまきのうらうらげきりたれ

ちつらまきまきのうらうらきりやま

秋 とき ときの大なるおしほろ名葉
とも云風又まのそれあき書の

秋 秋はしく安ゆれ秋秋はたつて風
をむまうり 芦荻ともて水邊にも

ふせの里又を初まの月 懐神はま
まうり 庭際又甚てまのそよぶま

秋 秋のまやうなる風専らま
連 秋のまの朝来る風もま専ら

秋 秋くる風やるとまの秋乃秋全
秋 秋をうり風をまの秋の風 月
秋 秋のまのうらうら秋の風 風

秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり
秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり

秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり
秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり

秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり
秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり

秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり
秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり

秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり
秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり

秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり
秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり

秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり
秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり

秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり
秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり

秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり
秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり

秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり
秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり

秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり
秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり

秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり
秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり

秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり
秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり

秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり
秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり

秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり
秋 秋のまのまのまの秋の秋やどり

詞 ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。
落。まかき。秋風。かこる。

俳 金糸竹輪は心とよ落う其前
秋風のまがらふなりむ落まゆ

陣 秋とくが箱落ちびく落まゆ
細く糸のうつくさき

糸 薄 糸細く糸のうつくさき
にまよふ及ぶむらじ

どすきと日さきと生れ

俳 ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

秋 落の落孔る。村さき。一村落。

ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

甘 葛 糸 ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

詞 ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

俳 ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

陣 ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

糸 薄 ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

どすきと日さきと生れ

俳 ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

秋 落の落孔る。村さき。一村落。

ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

ちびくこききまひく落。秋
落の落孔る。村さき。一村落。

科 州 本

葛 異名 藤 赤葛 五爪葛 赤後 烏葛 葛八 漢葛

秋 紅葛 秋 紅葛 秋 紅葛 秋 紅葛

名 乃 乃 名 乃 名 乃 名 乃

活 活 活 活 活 活 活 活

芭 蕉 異名 甘蕉 芭蕉 芭蕉 芭蕉

心 凝 日 吐 丹 誠 不 眠 愁

詩 七言對句 詩 礎

長 葉 臨 風 標 綠 幹 清 更 妍

赤 心 凝 日 吐 丹 誠 不 眠 愁

景 天 草 一名 散 花 柳 墨 園 冠 系

草 花 花 柳 柳 柳 柳 柳 柳

秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋

廉 廉 廉 廉 廉 廉 廉 廉

霧 霧 霧 霧 霧 霧 霧 霧

景 天 草 景 天 草 景 天 草

草 花 草 花 草 花 草 花

秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋

廉 廉 廉 廉 廉 廉 廉 廉

霧 霧 霧 霧 霧 霧 霧 霧

景 天 草 景 天 草 景 天 草

草 花 草 花 草 花 草 花

秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋

傳 雁書を渡りしは花に似たり
 嘆きしはさうれぬ花のうらさむさむ
 非 夢をやはさうれぬに似たり
 閑けくゆけを花を愛ふゆらぐ
 狂 花の海に能くはさむさむ
 台てはさしこむれをさうりり 由英

詩 草花詞

幽閑不附 睡蘭芳 コノ草花ハカ
スカニサビシイ

芳 トコロニ咲テ葉ナク
カサニタリニヨリウキ 日向江濱 コウニ
コウニ

道傍 ワカテニ江ノホトリホドニ
タナドラスミドコロニテ居ル

晴日暖開粧麗景 セウジツアタカニキヨホ
ツケイラレデモ秋
日ノウルハヒタ

吟郷 ニオホヒカケルヤウニカサテテ詩テモ
ツケルコ、ロニサセルデアアラフ

香蒙詞客入 カウモウシ
カクタイ

鷄頭花 異名 洗手巾。一没雲。
紫冠。花の秋露のこ

さう小何さうゆ人なつ 簾敷 さう小何さうゆ人なつ 簾敷
俳去師村さう人なつ 簾敷

雁素紅 言はれしは紫をさうぬ
△カサウラウラウ

花のこの花のいれは納むの
花葉依ふうらさむ花の素色
花をさかす花をさかすうらさむ

令伴素多して好あり美細
おまろい 縷縷をさかすのこ十枚綴
とと種れはさかすのこ十枚綴

狂 狂言 狂言 狂言 狂言

詩 翔雁南來塞草秋 葉ケイト
ウラ雁求

紅 紅トミカ南ノ國カラトヒワカ
コロハ廻國ノアキノコロシヤ 未霜紅 イダシキ
イダシキ

已先愁 スナニツカフ
モトツテハヤウレイガホニナル

綠珠宴罷歸金谷 リヨウ珠トテ
美人ガ酒宴

夜不收 タカサキ尺モアル珊瑚
珠ガ夜モカサキ有キ

夜不收 タカサキ尺モアル珊瑚
珠ガ夜モカサキ有キ

紅々ベニベニ 絳霞ベニカサ 白シロイト赤ベニイトベニ絳霞ベニカサ。木キ

丹ニ雖モトモト好ヨク不如ヨクニ它カ。木キ

種タネ元ハジメ來キ不レ是レ花ハナ。是レ香カヨリハナイトクキニシ

種タネ元ハジメ來キ不レ是レ花ハナ。是レ香カヨリハナイトクキニシ

白シロ茅チヂメ。茅チヂメ壹ヒト。茅チヂメ壹ヒト。茅チヂメ壹ヒト。

小兒コドモ好ヨクんでカ。小兒コドモ好ヨクんでカ。

て甚オホクニ益ユク。根ネをカ茅チヂメ根ネと云フ

又マタ俗ソコ又マタ西ニ根ネと云フ。又マタ俗ソコ又マタ西ニ根ネと云フ。

△高タカクやとトのノたタくク之ノのノりリ

△高タカクやとトのノたタくク之ノのノりリ

△高タカクやとトのノたタくク之ノのノりリ

△高タカクやとトのノたタくク之ノのノりリ

△高タカクやとトのノたタくク之ノのノりリ

△高タカクやとトのノたタくク之ノのノりリ

△高タカクやとトのノたタくク之ノのノりリ

△高タカクやとトのノたタくク之ノのノりリ

△高タカクやとトのノたタくク之ノのノりリ

△高タカクやとトのノたタくク之ノのノりリ

△高タカクやとトのノたタくク之ノのノりリ

△高タカクやとトのノたタくク之ノのノりリ

△高タカクやとトのノたタくク之ノのノりリ

△高タカクやとトのノたタくク之ノのノりリ

△高タカクやとトのノたタくク之ノのノりリ

△高タカクやとトのノたタくク之ノのノりリ

△高タカクやとトのノたタくク之ノのノりリ

△高タカクやとトのノたタくク之ノのノりリ

△高タカクやとトのノたタくク之ノのノりリ

△高タカクやとトのノたタくク之ノのノりリ

△高タカクやとトのノたタくク之ノのノりリ

△高タカクやとトのノたタくク之ノのノりリ

カ、千と訓ヅリに八月と云ふを
ひらき秋実とむと云

佛 燈台と云ふは、燈台の心臓を
燈台や燈者感して、心臓の腫立志

狂 狂つて、狂つて、狂つて、狂つて、
かゝるきと云ふは、狂つて、狂つて、

新 番 椒 番椒を、番椒を、番椒を、
番椒を、番椒を、番椒を、番椒を、

佛 佛の、佛の、佛の、佛の、佛の、
佛の、佛の、佛の、佛の、佛の、

布 布の、布の、布の、布の、布の、
布の、布の、布の、布の、布の、

若 若の、若の、若の、若の、若の、
若の、若の、若の、若の、若の、

黄 黄の、黄の、黄の、黄の、黄の、
黄の、黄の、黄の、黄の、黄の、

牛 牛の、牛の、牛の、牛の、牛の、
牛の、牛の、牛の、牛の、牛の、

芋 芋の、芋の、芋の、芋の、芋の、
芋の、芋の、芋の、芋の、芋の、

頭 頭の、頭の、頭の、頭の、頭の、
頭の、頭の、頭の、頭の、頭の、

佛 佛の、佛の、佛の、佛の、佛の、
佛の、佛の、佛の、佛の、佛の、

狂 狂の、狂の、狂の、狂の、狂の、
狂の、狂の、狂の、狂の、狂の、

藥 藥の、藥の、藥の、藥の、藥の、
藥の、藥の、藥の、藥の、藥の、

黄 黄の、黄の、黄の、黄の、黄の、
黄の、黄の、黄の、黄の、黄の、

牛 牛の、牛の、牛の、牛の、牛の、
牛の、牛の、牛の、牛の、牛の、

芋 芋の、芋の、芋の、芋の、芋の、
芋の、芋の、芋の、芋の、芋の、

頭 頭の、頭の、頭の、頭の、頭の、
頭の、頭の、頭の、頭の、頭の、

佛 佛の、佛の、佛の、佛の、佛の、
佛の、佛の、佛の、佛の、佛の、

狂 狂の、狂の、狂の、狂の、狂の、
狂の、狂の、狂の、狂の、狂の、

藥 藥の、藥の、藥の、藥の、藥の、
藥の、藥の、藥の、藥の、藥の、

黄 黄の、黄の、黄の、黄の、黄の、
黄の、黄の、黄の、黄の、黄の、

牛 牛の、牛の、牛の、牛の、牛の、
牛の、牛の、牛の、牛の、牛の、

芋 芋の、芋の、芋の、芋の、芋の、
芋の、芋の、芋の、芋の、芋の、

頭 頭の、頭の、頭の、頭の、頭の、
頭の、頭の、頭の、頭の、頭の、

佛 佛の、佛の、佛の、佛の、佛の、
佛の、佛の、佛の、佛の、佛の、

狂 狂の、狂の、狂の、狂の、狂の、
狂の、狂の、狂の、狂の、狂の、

藥 藥の、藥の、藥の、藥の、藥の、
藥の、藥の、藥の、藥の、藥の、

黄 黄の、黄の、黄の、黄の、黄の、
黄の、黄の、黄の、黄の、黄の、

牛 牛の、牛の、牛の、牛の、牛の、
牛の、牛の、牛の、牛の、牛の、

芋 芋の、芋の、芋の、芋の、芋の、
芋の、芋の、芋の、芋の、芋の、

のり乃天てれきんて芋の既大はし
て九三竹斗の抄あり芋と金ふき
ふいひまどふいひぐりさむいふ

① 一箱のきとや芋の寸斗刈き考
狂杖巻に無致らんてうく病も
りうも無さういりせうりたり 自見

葛 山薯 根條 徳里
山薯ともいふ。里に栽るものと
△ 葛根と申すを野山薯ともいふ

△ つく福も又うま芋とも云也
別名佛堂芋者とも芋の形をい
るげさうとれんをともいふの園を

△ 麻芋 山薯 芋 密系 飛ら
月トウゴ 其かららさし。甘者花
時々風水候ふのトて綴る

△ 多の古代より傳へるものなり
① 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜
瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜

△ 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜
瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜

△ 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜
瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜

零餘子 薯蕷の蔓よせとれ
食用とれ方あり

甘藷 元禄のとき冬アツキ
ナリ養聖王なる

果 李。杏。桃。栗これと
△ 瓜の 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜 瓜

ととけ外木果ましく秋は其のつかり
① 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋

この月となくんともたのむ
明る

① 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋
秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋

① 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋
秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋

① 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋
秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋

① 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋
秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋

①柿 柿をよきかきくく 穢なるを芳
掃のホヤこく 自後の親仁を 岩窟

詩 七字對句

詩 礎

垂枝星實 粟々熟 千顆蜜
カサノミ

帯葉霜皮 顆顆乾 一林霜
カサノミ

柿の種数 ①御所柿 和及御所
村より出るも乃 宜とく 玉る 灰又

ち如柿 ②云如州 ③平柿 ④らふ
御所柿 ⑤愈々 ⑥は又 ⑦位の ⑧秋 ⑨若 ⑩本

△似柿 ⑪正柿 ⑫似々 ⑬味かき ⑭り
狂 ⑮ふら ⑯いふ ⑰は ⑱むけ ⑲柿 ⑳悪 ㉑葉と

△適微柿 味さき ⑳く ㉑て 肉
と 現 通 る ㉒が ㉓く ㉔り ㉕号 ㉖く

△朱柿 形たま ㉗の ㉘く ㉙コ ㉚子 ㉛リ
い 小 形 ㉜ら ㉝く ㉞海 ㉟を ㊱り

① 著用集

泰光法師

霜掛けるこわり 柿柿をのぼり
ふくやまき 命のり のよそ あり たり

△筆柿 かさ ①小 ②ゆ ③て ④長 ⑤く ⑥徹
筆乃 ⑦い ⑧く ⑨く ⑩ふ ⑪か ⑫ま ⑬い ⑮く ⑯山

かこよ柿 ①も ②い ③ふ ④き ⑤り
⑥御 ⑦柿 ⑧や ⑨あ ⑩じ ⑪の ⑫霜 ⑬は ⑭ま ⑮れ ⑯昌 ⑰房

衣の外に ①八 ②里 ③柿 ④。 ⑤於 ⑥老 ⑦柿 ⑧。 ⑨田 ⑩倉
柿の ⑪久 ⑫保 ⑬柿 ⑭。 ⑮糸 ⑯社 ⑰柿 ⑱。 ⑲若 ⑳遷 ㉑ま

名 柿 ①数 ②多 ③く ④一 ⑤團 ⑥の ⑦水 ⑧去 ⑨り
て 味 ⑩も ⑪飛 ⑫も ⑬つ ⑮く ⑯く ⑰る ⑱も ⑲り

① 酎 ②柿 ③流 ④柿 ⑤を ⑥石 ⑦皮 ⑧は ⑨浸 ⑩り ⑪み
⑫⑬ ⑭⑮ ⑯⑰ ⑱⑲ ⑳㉑

① 包 ②柿 ③柿 ④の ⑤言 ⑥き ⑦の ⑧を ⑨袋 ⑩は ⑪細
⑫⑬ ⑭⑮ ⑯⑰ ⑱⑲ ⑳㉑

① 筋 ②柿 ③筋 ④柿 ⑤を ⑥糸 ⑦の ⑧ま ⑨き ⑩つ ⑪り ⑫て
⑬⑭ ⑮⑯ ⑰⑱ ⑲⑳ ㉑㉒

① 州 ②柿 ③屋 ④柿 ⑤と ⑥極 ⑦水 ⑧と ⑨は ⑩藤 ⑪州 ⑫き ⑬を
⑭⑮ ⑯⑰ ⑱⑲ ⑳㉑

① 人 ②筋 ③は ④又 ⑤次 ⑥又 ⑦極 ⑧水 ⑨と ⑩は ⑪藤 ⑫州 ⑬き ⑭を
⑮⑯ ⑰⑱ ⑲⑳ ㉑㉒

柿餅 しほ 渋柿と干し柿の粉を
和して蒸く餅と風味
をよく食用に益あり

梨子 なし 梨の果
名 異 梨の果 梨の果。千歳果。
去圖実。百葉果。

快果 かいこ 菓名。玉乳。蜜文。
種類 水蜜。山梨。蜜文。

△本梨 △道江梨。松尾梨。空
剛梨 △生瀧梨。大梨。津野梨

回取不 まわりと かりたなるもの
をふみこすあり大梨のふ道江に
しり志賀理里よりかり親重の

梨 芦浦親重より出空閑文
しり肥老より出

△六非 むそ 衣笠庵志長
来りまがかりはさかたはさかたの
けりぬもかよもかよこそなりぬと

△非 ひ は梨の種より取りたる昔菓
あり梨の種より取りたる昔菓の味は

注 ちゆ けあけたる鞠のこころはさかた
意の指より取りたるはさかたの

新妻梨 しんさいなし 梨の種より取りたる昔菓
梨の種より取りたる昔菓の味は

秋 あき かきりたるさかたの味はさかた
ふるさのさかたの味はさかたの味は

秋田 あきた 山松乃木の名はさかた
はさかたの味はさかたの味は

田 た 梨の種より取りたる昔菓
梨の種より取りたる昔菓の味は

稲 いな 梨の種より取りたる昔菓
梨の種より取りたる昔菓の味は

葉の雲 はのぐも 七月の死に稲は七月の季
も稲の収季は博物誌にさかた

里 さと まじりたる稲田はさかたの味は
さかたの味はさかたの味は

詞 ことば はさかたの波をさかたの稲はさかた
はさかたの味はさかたの味は

はさかたの味はさかたの味は

① 篠田 篠田之原と云ふ事 篠田正秀
篠田は用字な篠の程ひある 某書に

② 篠舟 川にまゐりて舟なり

③ 川にまゐりて舟なり 川にまゐりて舟なり

④ 秋の田もみぢもみぢや見とるは
民のゆはみぢふたてで秋の 真柳

⑤ 秋の田もみぢもみぢや見とるは
民のゆはみぢふたてで秋の 真柳

⑥ 秋の田もみぢもみぢや見とるは
民のゆはみぢふたてで秋の 真柳

⑦ 秋の田もみぢもみぢや見とるは
民のゆはみぢふたてで秋の 真柳

⑧ 秋の田もみぢもみぢや見とるは
民のゆはみぢふたてで秋の 真柳

⑨ 秋の田もみぢもみぢや見とるは
民のゆはみぢふたてで秋の 真柳

⑩ 秋の田もみぢもみぢや見とるは
民のゆはみぢふたてで秋の 真柳

⑪ 秋の田もみぢもみぢや見とるは
民のゆはみぢふたてで秋の 真柳

⑫ 秋の田もみぢもみぢや見とるは
民のゆはみぢふたてで秋の 真柳

⑬ 秋の田もみぢもみぢや見とるは
民のゆはみぢふたてで秋の 真柳

⑭ 秋の田もみぢもみぢや見とるは
民のゆはみぢふたてで秋の 真柳

⑮ 秋の田もみぢもみぢや見とるは
民のゆはみぢふたてで秋の 真柳

⑯ 秋の田もみぢもみぢや見とるは
民のゆはみぢふたてで秋の 真柳

⑰ 秋の田もみぢもみぢや見とるは
民のゆはみぢふたてで秋の 真柳

⑱ 秋の田もみぢもみぢや見とるは
民のゆはみぢふたてで秋の 真柳

⑲ 秋の田もみぢもみぢや見とるは
民のゆはみぢふたてで秋の 真柳

⑳ 秋の田もみぢもみぢや見とるは
民のゆはみぢふたてで秋の 真柳

㉑ 秋の田もみぢもみぢや見とるは
民のゆはみぢふたてで秋の 真柳

㉒ 秋の田もみぢもみぢや見とるは
民のゆはみぢふたてで秋の 真柳

右張の稿こき出せり。寒蟬業
多し。如し。秋の稿。多し。寒蟬業
多し。如し。秋の稿。多し。寒蟬業

新米 △おろし米△煮米。八月
の暮まに。才書おれり。

綿 △本綿。糸。棉の糸。り。
△本綿。二種あり。樹綿の

糸も大きく。花赤く。甚だ。り。
ハニヤ。も。日本。より。輸入。せり。

今。何。の。糸。を。綿。たり。
強。き。や。細。き。の。日。報。を。言。書。は。れ。

桃吹 梅の葉。小。き。梅。の。葉。
は。ま。た。枝。の。浪。の。ま。り。な。ま。由。葉

秋生類 この。部。は。三。秋。
は。ら。生。類。を。出。し。

麻 △麻。△麻。△麻。△麻。△麻。
△麻。△麻。△麻。△麻。△麻。

和の △和。糸。を。△和。糸。を。△和。糸。を。
△和。糸。を。△和。糸。を。△和。糸。を。

異名 △和。糸。を。△和。糸。を。△和。糸。を。
△和。糸。を。△和。糸。を。△和。糸。を。

名 倭。糸。花。山。乃。士。茨。夜。郎。ま。
和。女。南。仙。錦。馬。楓。龍。

△和。糸。を。△和。糸。を。△和。糸。を。
△和。糸。を。△和。糸。を。△和。糸。を。

△和。糸。を。△和。糸。を。△和。糸。を。
△和。糸。を。△和。糸。を。△和。糸。を。

△和。糸。を。△和。糸。を。△和。糸。を。
△和。糸。を。△和。糸。を。△和。糸。を。

△和。糸。を。△和。糸。を。△和。糸。を。
△和。糸。を。△和。糸。を。△和。糸。を。

△和。糸。を。△和。糸。を。△和。糸。を。
△和。糸。を。△和。糸。を。△和。糸。を。

△和。糸。を。△和。糸。を。△和。糸。を。
△和。糸。を。△和。糸。を。△和。糸。を。

△和。糸。を。△和。糸。を。△和。糸。を。
△和。糸。を。△和。糸。を。△和。糸。を。

△和。糸。を。△和。糸。を。△和。糸。を。
△和。糸。を。△和。糸。を。△和。糸。を。

△和。糸。を。△和。糸。を。△和。糸。を。
△和。糸。を。△和。糸。を。△和。糸。を。

秋山の雲よなをやまよりのせり
ものしほきさきしきりしきりしきり

いふくささるくささるのけしき
きりしきりしきりしきりしきり

眞傳

いさぢるさるさるのけしき
ゆがつるくもひさしゆくゆ

いさぢるさるさるのけしき
ゆがつるくもひさしゆくゆ

いさぢるさるさるのけしき
ゆがつるくもひさしゆくゆ

いさぢるさるさるのけしき
ゆがつるくもひさしゆくゆ

校後拾

いさぢるさるさるのけしき
ゆがつるくもひさしゆくゆ

山家

いさぢるさるさるのけしき
ゆがつるくもひさしゆくゆ

詞

いさぢるさるさるのけしき
ゆがつるくもひさしゆくゆ

いさぢるさるさるのけしき
ゆがつるくもひさしゆくゆ

いさぢるさるさるのけしき
ゆがつるくもひさしゆくゆ

いさぢるさるさるのけしき
ゆがつるくもひさしゆくゆ

いさぢるさるさるのけしき
ゆがつるくもひさしゆくゆ

いさぢるさるさるのけしき
ゆがつるくもひさしゆくゆ

いさぢるさるさるのけしき
ゆがつるくもひさしゆくゆ

いさぢるさるさるのけしき
ゆがつるくもひさしゆくゆ

いさぢるさるさるのけしき
ゆがつるくもひさしゆくゆ

いさぢるさるさるのけしき
ゆがつるくもひさしゆくゆ

いさぢるさるさるのけしき
ゆがつるくもひさしゆくゆ

應苗を谷の圃まきく廣哉後川
湯女ト下 紗をよめるは谷の春如

狂 みるははるまひふくろむくはる
深きカクがむ秋の真ふ白圃

春苗の如くゆるく 後池も
中とれらうのよるまありくは波淡

詩 鹿と字對句

詩 礎

作對 御花歸遠洞

何濯々

成群 摘草過山林

更吹々

又ヒトムニテ草ヲヒイニ山
ヤ林ヲスギルモノビヤ

又エウクトモ
ナク

故事 二女紫額襦

搜神記 淮陳氏

田ニ豆ヲ種ニ忽テ二女ヲ見ル空
貌甚美也紫ノ額添ノ襦ニ青キ

裾ヲツケ天雨フレトモ衣濕ナレ陳氏
アヤシニテ壁ニ鏡ヲ掛タリケレバ鏡

中ニ二鹿ヲウツセリ是ニオヒテ刀ヲ
以テニレヲ研ル

鳴 本草 伯勞とくつりけき
阿すけり秋まのりて夜
キイと啼く俗鳥の種執とス
とさしあうぬまぬま小もふかして
食ふ容形とも鷹ふ如き△百
舌あるしも書けども此鳥を未詳
秋風は身を尾が赤れど鳴く
秋のさうりとるやりけふふ ぬま

雛 鶯のさふまけははるの雛の如く蓮ニ
「名」の身まじりんははるの雛の如く蓮ニ
鳴 鳴 鳴
鳴 鳴 鳴

鳴 鳴 鳴
鳴 鳴 鳴

鳴 鳴 鳴
鳴 鳴 鳴

鳴 鳴 鳴
鳴 鳴 鳴

鳴 鳴 鳴
鳴 鳴 鳴

鳴 鳴 鳴
鳴 鳴 鳴

鳴 鳴 鳴
鳴 鳴 鳴

鳴 鳴 鳴
鳴 鳴 鳴

鳴 鳴 鳴
鳴 鳴 鳴

鳴 鳴 鳴
鳴 鳴 鳴

鳴 鳴 鳴
鳴 鳴 鳴

鳴 鳴 鳴
鳴 鳴 鳴

鳴 鳴 鳴
鳴 鳴 鳴

系理にまぐり煙なり致ふいやく
 漆州神うらふ合せくこれに機
 名不ありんぐくもささふく荒
 物ふあうて夜むくくを飛登
 夢に依り窟と其腔深うり
 横州をえんばかに居るまを
 多しに地りまごうて安んじ
 成り聖人熟居るより其出
 然ハ千二の如し△行熟い
 交婦をさして居るを△駢
 熟い鷹さうけ合さる人藻居出
 △熟の産△づれう不どさ
 せむしをのふり致ふうづの
 産い何れよりりもよめり△熟
 熟いよりを飼養のみなり
 △熟細いづをを網なり
 秋山里に様の家が遠き日さ
 外面ののりまうづ鳴きり美家
 山田守るきせふせや風ふけ
 何せつて熟おしき入後致

詞尾花がくをそのがふくと州
 の床。わけなぐり。里のうづ
 。そやうと。きりのまがたよ鳴
 。そのが床をちと。神風。ちん
 野。寝の枕。はゆをむこ。黄
 うき。くろつてひなく。

俳うらうそ略まばやまの浦蓮二
 栗のやと見上り付や鳴るづ一全
 在 疾をくり誰とかりそづらきや
 いまは舞舞よりつらなり真危

鱷 名異 肥鰓魚。紅文生。鱷
 瀬臣。松江魚。

川も海もありちふよよりそ
 名を異しむり之小と世いどの
 秋 秋風よりきつる舟よりきり
 うのそくは名捕志とみく 西形
 何く入の着はうらうとまきつる
 あまをえんるに縁の秋を人丸
 秋の後の交井の浦は舟ゆり
 月よやあまは鱷つらん

狂キヤウハハシシララシシ 狂キヤウハハシシララシシ 狂キヤウハハシシララシシ

鱸膾スギノメ 南ミナミ郡ノ記キ日ヒ吳ウ人ニ階カ

金キネ華カノノ玉タマ膾カイ東トウ

秋風起アキカゼオコ 晋シン書ショ日ニッ振カ聲シヤウ字ジハハ李リ

大ダイ司シ馬マ東トウ曹ソウノノ椽ケントト九ク秋シュウ風フウノノ起キ

唯タラシココロロササシシニニ適テイススルルココソソ貴キメメ何ナニソソ

此コノ數スウ千セン里リニニアアリリテテ身ミノノ名ナ辭ジヲヲ

吳ウ中チュウニニ皀キレレリリココノノ意イ

秋風アキカゼノノ籟サイ乃ハまますす名ナハハ出デスス

鮎アサギ 吹フク洲シュウ。鮎アサギ。阿ア浪ラウ。阿ア浪ラウ。阿ア浪ラウ。

魚イサ。川カハ流リウ海カイららううれれたたありあり

八月ハチグヒノノ秋アキハハ大ダイクク

舟フネとト知チんン不フくクけけ無ム後ゴシシ船セン中チュウ

浪ナミ花ハナ川カハにニははむむみみたたりり

江カハ朝アサ。鮎アサギノノ小コ水スイヲヲヨヨリリノノををりり

山ヤマ家カ集シユ 西セイ行コウ

ええおおるるああららししははああのの水スイははおおももたたいい

江カハ朝アサ。鮎アサギノノ小コ水スイヲヲヨヨリリノノををりり

鮎アサギノノ小コ水スイヲヲヨヨリリノノををりり

鮎アサギノノ小コ水スイヲヲヨヨリリノノををりり

毛を乗る脯とほして其名紙然引
とのふされとも紙中此物と云ふ

繚ひき 引ひき 引ひき 引ひき 引ひき
紫ともいふ

あゝの海渡るとはけとほふいじ
のとりくつゆかひ

山いくつ七目注よつ一書業示
ん其業をむさかりぬり舞も馬

秋西の雲雲方り赤き
その入けとれ繚ま

秋のふれまきり落る付
水勢又引きて落る

秋のふれまきり落る付
水勢又引きて落る

秋のふれまきり落る付
水勢又引きて落る

秋のふれまきり落る付
水勢又引きて落る

秋のふれまきり落る付
水勢又引きて落る

三秋の部終

入用字引集

此字引い世俗日く入用の文字
と撰とあつめお用ひざる遠
き文字とまづく取字とひくふ
基とまやく之真の早刻き

須為此
字燈
字云幸
ハ為佛
板也



文化元年甲子臘月發行

東都 須原屋善齋

皇都 野田次兵衛

浪花

同

